



“MELT-活動、飛躍の時！”

笠原正雄：“MELT-up フォーラム”，東京都，2013-10

早稲田大学理工学研究所
中央大学研究開発機構



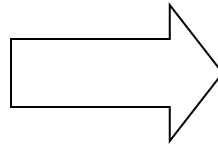
MELT upの重要性

M:Management

E:Ethics

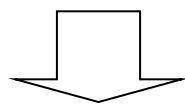
L:Law

T:Technology



三止揚

(dreif Aufheben)



目的

自由、安心・安全、プライバシーの対立ではなく
三止揚する。

以上、辻井重男先生の「斬新な思想」



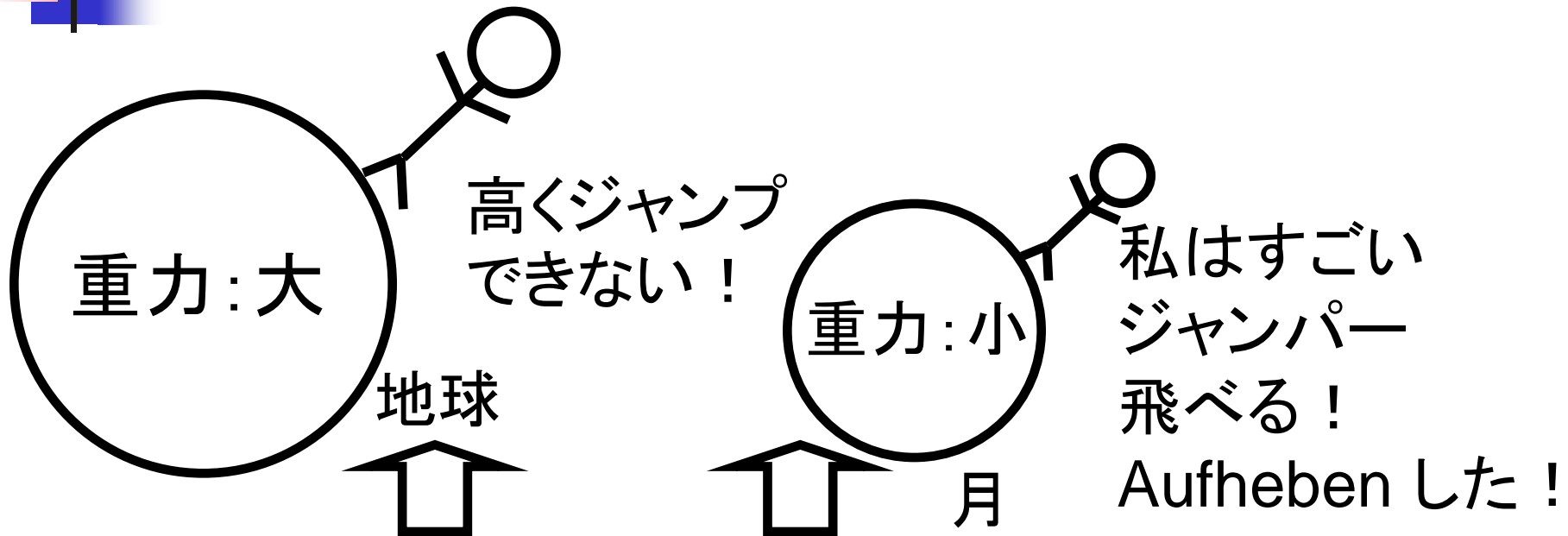
Aufhebenについて日本語に堪能なドイツ人学者A博士との会話

私：辞典で“止揚”を調べると“アウフヘーベンを見よ”とあります。そこでアウフヘーベンを調べてみるとあるものをそのものとしては否定しながら、更に高い段階で生かすこととあります。

これではなんのことか私には理解できません。例えばどういうことを意味するのでしょうか。

A博士：ヨーロッパでは第一次大戦、第二次大戦で互いに戦いました。その理由がAufhebenしてEUになったと私は考えています……

Aufheben...A博士と私の解釈



万有引力の法則

万有引力は不変！ MELT up も不変！

人類の福利向上に尽くす人々の世界は何れの
世界でも不変！



MELT upの歴史

(電子情報通信学会を中心にして)

(I) **1994年電子情報通信学会大会(1994年)**

——ソサイエティ先行大会——

特別講演会

課題名: 情報通信倫理フォーラム

座長: 辻井重男

プロローグ: 辻井重男「情報文明時代の自由と規律」

——暗号学の視点から——

スピーカー: 今井秀樹

「情報通信倫理と情報セキュリティ技術」

外 4名

コメンテータ: 笠原正雄: 「情報倫理総合科学ことはじめ」



MELT upの歴史

(電子情報通信学会を中心にして)

(Ⅱ) 電子情報通信学会

1994年春季大会パネル討論会

課題名「21世紀における情報通信倫理とその課題」

座長：笠原正雄

パネラー：平澤茂一「経営者から見た倫理」

：原島博「マルチメディアと人間」

：長尾真「情報の生態学」

コメンテータ：辻井重男「善の研究と倫理」



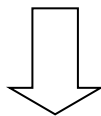
MELT upの歴史

(電子情報通信学会を中心にして)

電子情報通信学会各種研究専門委員会委員長経験者が集って下記研究会をスタートさせる

(Ⅰ) 情報通信学会第三種研究専門委員会として準備活動
「情報通信倫理研究会」 1995年5月～1997年5月
委員長: 笠原正雄

(Ⅱ) 1997年 5月 上記研究会第一種研究会として本格的スタート
委員長: 辻井重男



現在, 「技術と社会・倫理」研究会として活動

MELT upの歴史

(電子情報通信学会、米国IEEEを中心にして)

1998年ごろより、下記トライアングル

電子情報通信学会
(情報通信倫理研究会)

米国IEEE,
Society on Social Implication
of Technology, Tokyo Chapter

委員長(11年)副委員長(22年)村主行康
委員長(10年)笠原正雄

日本技術士会
情報分科会



MELT upの歴史

(電子情報通信学会を中心にして)

電子情報通信学会、下記教科書を出版

(Ⅰ)『情報技術の人間学』(2007年)

笠原正雄(元電子情報通信学会基礎・境界ソサイエティ会長)

(Ⅱ)『情報社会・セキュリティ・倫理』(2012年)

辻井重男(元電子情報通信学会会長)

因みに米国では『デ・レ・メタリカ(金属について)』を

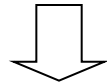
米国大統領フーバー夫妻が翻訳出版(1912年)

➡ 鉱山公害への早期対策



MELT upの歴史 (中央大学を中心にして)

- ・文部科学省「**COEプロジェクト**」
 - ・総務省「**SCOPEプロジェクト**」
 - ・経済産業者
「企業・個人の情報セキュリティ対策促進事業」
 - ・**NICT**(情報通信研究機構)
- 今回の**MELT up**フォーラム(新世代への脱皮, スタート)

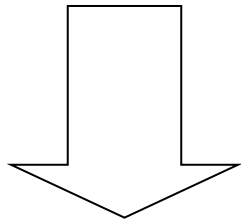


自由, 安心・安全, プライバシーの確保!
管理・経営, 倫理, 法制度, 技術をMeltして
止揚しましょう!!



“寸評”

MELTは、21世紀、人類の福利の
向上のために尽くす



MELT upのさらなる発展を！！